（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成30年度　学校自己評価システムシート（埼玉県立草加西高等学校）

目指す学校像	人に優しく、自分に厳しく、社会に貢献する人間を育てる学校 ～自らの力で進路実現できる力を養う～

重点目標	1　個に応じた学力の向上と、主体的に学ぶ意欲を育成する。 2　自らの行動を律する力を身に付けるとともに、活力ある学校行事や部活動・生徒会活動を実現する。 3　生徒が望む進路を実現するために、個々の進路希望に応じたきめ細かな指導を行う。 4　地域との連携を強化し、信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。

達成度		
	A	ほぼ達成　（8割以上）
	B	概ね達成　（6割以上）
	C	変化の兆し　（4割以上）
	D	不十分　（4割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者　学校関係者	名
生徒	名
事務局(教職員)	名

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価							学校関係者評価
年度目標					年度評価（　月　日現在）		実施日　平成　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	・生徒、保護者の進路意識の向上により、授業内容の程度や進度について、検討や確認が必要となっている。 ・生徒が主体的に学習に取り組む姿勢と、自発的に学ぶ力の育成が課題である。	・生徒の学習意欲が向上するような授業進度や内容の改善、教師の教科指導力の向上 ・生徒が自主的に学習に取り組む	①保護者アンケートの結果内容に基づき、生徒・保護者の求めに応じた授業内容や程度の改善を全教科において計画的に実施し、公表する。 ②長期休業中や放課後を活用して、進学者や就職者対象の補習を計画的に実施する。(通年) ③教科と学年が連携し、資格試験の補習を充実し、資格取得を推進する。(通年) ④教師の教科指導力を向上させるため、教員研修参加の機会を増やし、校内研修を実施する。	①生徒の家庭学習時間を昨年度より増加させ、基礎学力を向上させる。 ②成績優良者数を昨年度より増加させる。 ③資格試験の合格者が増加し、英検・漢検2級合格者を増加させる。(昨年度比) ④教員間で授業を公開し、相互に研究し指導を高め合う機会を設ける。また、予備校実施の教育研修への参加者を推進 させ、(昨年度5名以上)研修成果を校内研修会等で共有する。(2学期)				
2	・日々のきめ細かな生徒指導を実施することにより生徒は前向きに学習に臨み、安定した学校生活を送れている。今後は、教員と生徒との信頼関係を強化し、一人一人が規律ある態度を実践し、将来へ向けた自主自立と必要な規範意識をより一層向上させることが課題である。	・自らの意志で行動を律する力の育成 ・生徒一人一人の悩みに対応し、きめ細かな指導の実施と連携体制の構築 ・交通ルールを遵守し、自ら安全に配慮し、事故を防ぐ意識の向上	①担任・教科担当・部活動顧問が連携し、遅刻指導や身だしなみ指導等をとおして、自らの意志で基本的生活習慣が身に付くように指導する。(毎日) ②-1　悩みや課題を抱えた生徒への対応として、ｽｸｰﾙｶｳﾝｾﾗｰによる教育相談を実施する。(毎月) ②-2　校内教育相談体制を充実し、草加分校と連携した体制を実現する。(通年) ③学期毎に保護者と連携しての交通安全指導期間を設けて実施し、交通ルールやマナーを守る規範意識を高める。	①欠席数や遅刻数が減少する。(昨年度比) ②-1　転退学者が昨年度より減少する。 ②-2　草加分校と協力した教育相談対応やケース会議等を実施し、情報共有の機会を設定する。(通年) ③交通ルールを守り、登下校時の交通事故が昨年度より減少する。(昨年度比)				
	・主体的・自主的に行動できる生徒は確実に増えているが、行動力や行動範囲が限定されていることが課題である。	・部活動や行事などにおいて他者から認められるような結果を出す ・生徒が自信を持てるような取り組みを実践	①生徒会活動の核となる生徒会本部の活動を充実し、行事運営を今まで以上に生徒主体で実施する。 ②部活動加入率を前年度同様(90%以上)維持し、各種大会やコンクールで上位入賞ができるよう適切かつ必要な指導者を配置する。	①生徒会の本部役員が主体となって活動を活性化し、各学校行事等の企画・運営を今まで以上に生徒中心に行い、責任感と自信が持てる行動力を実践する。 ②部活動加入率を90%以上を維持し、運動部・文化部ともに、指導を通じて活動を活性化させ、多くの部活を県大会などの上位大会やコンクールなどに出場させる。				
3	・教科や各分掌との連携により、生徒の進路実現の達成率は98%を超えている。大学等への進学者も増加しつつあるが、進路実現に向けてチャレンジする意欲の向上と目標に向け最大限の準備を行うことが課題である。今後は、生徒の多様な進路希望に対応するとともに、更なる学力の向上と、進学者には一般受験に挑戦する意欲を培わせるとともに、将来社会で活躍できる人材としての力を育成することが課題である。	・全教職員による進路指導体制の確立 ・進路決定100%を実現する、個々に応じた指導の実践 ・生徒や保護者への積極的かつ的確な進路情報の提供	①進路指導部を中心に各学年が連携を図り、学年ごとに計画的に進路指導を行う。 ②進路指導部・教科や学年が連携して、補習・個別面談や小論文指導等の指導の他、教員向けの進路指導研修(進学指導全般)を実施する。 ③保護者会や個別面談等を通して、進路に関する情報を的確に提供し、質の高い進路指導を継続実施する。	①年間を通じ、進路指導主事による進路講話や進路指導研修等の計画を予定通りに実施する。 ②3年生においては、進学・進学準備や就職等の進路決定100%を実現。1・2年生においては、学年での進路指導が活性化する。特に1年生では、新しい高大接続に対応した指導を実施する。 ③大学等が実施する進路説明会へ教員を派遣し、常に新しい情報を把握、生徒面談等に還元する。				
4	・積極的な情報発信と施設開放、地域ボランティア等の参加協力で開かれた学校づくりを推進している。地域の小・中学校との交流を継続して実施するとともに定着化させることが課題である。 ・学校行事や授業公開への保護者の参加数は年々増加している。PTA活動への保護者理解と参加者の拡大が課題である。 ・草加かがやき特別支援草加分校との交流は良好である。更に相互理解を推進さるため、新たな交流の検討と実施が課題である。	・地元住民や近隣学校との交流の推進 ・学校・PTA・後援会との連携・協力体制の整備と活動広報の推進 ・草加分校との連絡連携体制の構築と教育活動への相互協力体制の強化	①地域住民や小・中学校等との連携を図り、地域の高校としての認知度を高める。 ②PTA・後援会理事会を中心として、保護者間の連絡や連携を強化し、活動の理解と各種行事等に参加しやすい環境を整える。 ③草加分校と連携し、日々の連絡を共有する体制を構築する。また、各種行事の共同開催や放課後の部活動を合同で行う。	①学校説明会への参加者を昨年度(526名)より増加させる。(650人以上) ②-1 地域ボランティア活動への参加部活と生徒数を増加させる。 ②-2 保護者の授業公開やPTA活動、各種行事等への参加数を増加させ、学校への関心を高める。 ③合同での行事実施を行い、相互の交流が積極的になされ、生徒の共生意識と他者への思いやる心を醸成する。				